

日本心血管理学療法学会「COVID-19 関連情報特別チーム」
海外の専門情報

No.69

調査者	松木 良介、井澤 和夫
情報ソースの刊行日	2020年12月7日
情報ソースの調査日	2021年2月11日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2021年2月17日
日本語タイトル	遠隔心肺リハビリテーション評価中の運動能力の代理として使用できる機能的アウトカム指標はどれか? -迅速ナラティブレビュー-
情報ソース	Houchen-Wolloff L, et al. Which functional outcome measures can we use as a surrogate for exercise capacity during remote cardiopulmonary rehabilitation assessments? A rapid narrative review. ERJ Open Res. 2020 Dec 7;6(4):00526-2020.
情報のカテゴリー	包括的心リハ
発信地域	イギリス(ヨーロッパ)
URL	https://openres.ersjournals.com/content/early/2020/10/01/23120541.00526-2020
要約	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19 のパンデミックでは、多くの心肺リハビリテーションサービスが遠隔により配信されている。 レビューの目的は、心肺リハビリテーションのための推奨される運動テスト(6 min walk test: 6 MWT), incremental shuttle walk test: ISWT, cardiopulmonary exercise test: CPET)と機能的運動テスト(Duke activity status index: DASI, Sit to stand: STS, short physical performance battery: SPPB, 4 metre gait speed: 4MGS, Step test)との関係を調べることである。 最終対象件数は、論文 249 件中 16 件(n=2271 例)であった。 家庭で実行できる機能テスト(DASI, STS, SPPB, 4MGS, Step test)と推奨される運動テスト(6MWT, ISWT, CPET)には弱い～強い相関があった(r=0.38-0.85)。4MGS は、ISWT(r=0.78)および 6 MWT(r=0.85)と最も高い相関関係があった。 家庭で実行できる機能的運動テストはリモート場面でも優れた信頼性と再現性を備えていた。